

# 特許紹介

1

## 発明の名称

送風ファン

## 発明の目的

送風ファン前方の通風抵抗が高い状態で、空気流れが斜流になった場合でも、翼表面より空気の剥離を抑えた低騒音のファンを実現する。

## 発明の構成

翼103の翼取付角  $\beta$  をボス部101との連結部である翼元部から、少なくとも平均ファン半径位置である翼中間部に至るまでの第1領域では略一定値とし、かつ翼先端部にかけての第2領域では、この翼取付角  $\beta$  を増大させる。さらに、翼の翼弦長  $L$  が、翼元部から翼先端部にかけて漸増させる。

また、翼元部から翼中間部までの第1の中心線11に対し、翼中間部から翼先端部までの第2の中心線12をファン回転方向に傾斜させ、この第1及び第2の中心線に直角方向に翼型を形成する。

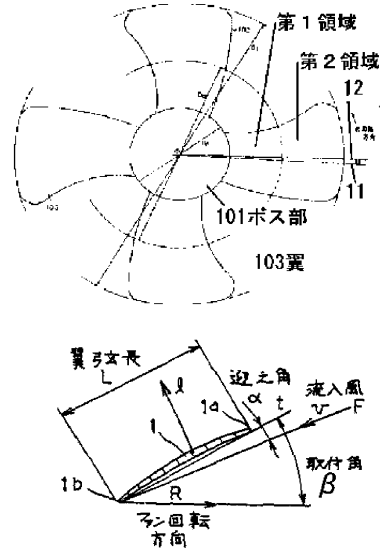
これにより第1領域での取付角を第2領域より小さくし、ほぼ一定とし、第1領域での抑え角を小さな値とすることで、前方抵抗が高くなっても失速を起こさない範囲に設定して低騒音化を図る。

【登録番号】特許第2590514号

【公開日】1989年1月5日

【発明者】阪根 高明  
竹内 和宏

## 図面



2

## 発明の名称

バイトホルダーおよびそれを用いた切削方法

## 発明の目的

切粉の巻きつきを効果的に抑制できるバイトホルダーおよび切削方法を提供する。

## 発明の構成

ホルダー本体(10)の一面から突出する第1の突起部(15)と、切削刃チップ(13)に隣接する部位に、ホルダー本体(10)の他の面から突出する第2の突起部(16)を備える。

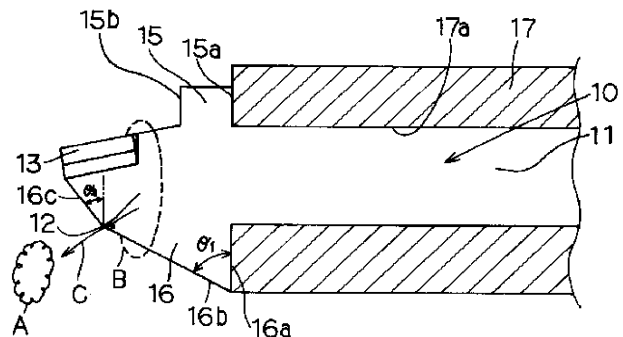
この第2の突起部(16)には、切削刃チップ(13)に向かって、切削刃チップ(13)に接近する方向に傾斜する傾斜面(16b, 16c)を有し、切削刃チップ(13)の切削作用により発生する切粉(A)が第1の突起部(15)に衝突してはね返るようにし、切粉の巻きつきを効果的に抑制でき、切削加工の生産性を向上できる。

【登録番号】特許第2968917号

【公開日】1997年6月3日

【発明者】森 隆明

## 図面



発明の名称

抵抗溶接用制御方法及び装置

発明の目的

被膜電線等を抵抗溶接する際に被膜剥離不良や溶接強度不良が発生することのない抵抗溶接用制御方法及び装置を提供する。

発明の構成

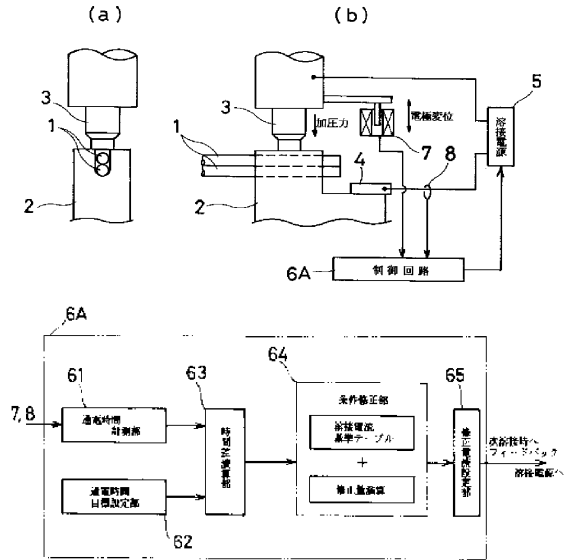
上部電極3及び下部電極4からなる両電極間に配置された銅を含む金属からなるターミナル2と樹脂被膜された被膜電線1との溶接時における所定電極変位までに要する溶接電流の通電時間を計測する制御回路6A、電極変位計測用センサ7及び溶接電流・通電時間計測用センサ8にて達成される時間計測手段と、前記時間計測手段で計測された前記通電時間とあらかじめ設定された目標通電時間との時間差を算出する制御回路6Aにて達成される時間差演算手段と、前記時間差演算手段で算出された前記時間差に基づき次回の溶接タイミングにおける溶接電流を増減補正する制御回路6Aにて達成されるフィードバック制御手段からなる。

【登録番号】特許第2783155号

【公開日】1995年10月31日

【発明者】川越 禎  
上甲 敬三

図面



発明の名称

内燃機関用回転位置検出装置

発明の目的

ロータ形状精度や、回転数による信号周期の変動などから生じる基準位置の誤検出を簡単な構成で確実に防止する回転位置検出装置を提供する。

発明の構成

ロータ2の欠歯部分2bでは、 $T_i/T(i-1) > K$ が成立しているため、両アップダウンカウンタ17, 18のうち一方が、欠歯部分直前でのアップカウント値より欠歯部分でのダウンカウント値が大となる。

すなわち、カウント値が負の値となるため、この時点で、アップダウンカウンタの“Borrow”端子より信号が出力される(右図の116)。欠歯部分2bはロータ2の基準位置に設定されているため、信号116により基準位置検出ができる。

【登録番号】特許第3063627号

【公開日】1993年3月23日

【発明者】伊藤 正幸  
森 英人

図面

